



考えてみよう!

会社は「よく考えて」って言うけど…

そもそも
シリーズ②

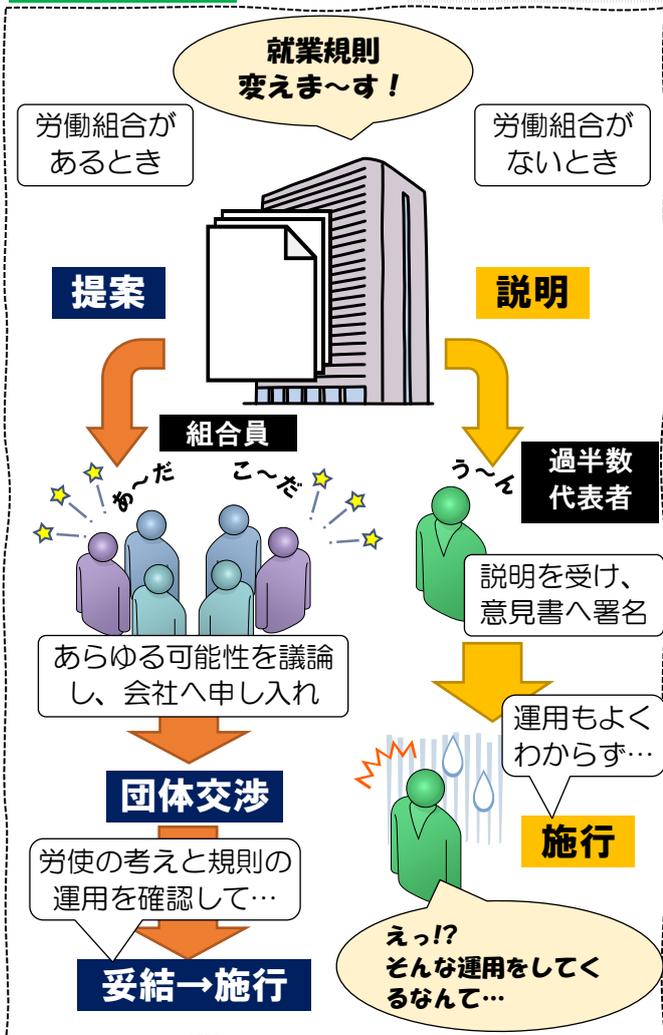
そもそも労働組合は必要?

後になつては遅い…ということも
今に満足して「不要だ」では

誰も守れない

もちろん、労働条件が良く、業務上不都合がなければ労使関係は安定していると言えるだろう。しかし、**情勢が変化すれば労働条件の変更が必要になってくる。**

労働組合に加入していると、会社から提案された労働条件の変更に関して組合員が結集し、「明確な運用で労働者に不利益が出ないか?」「この条件は現場が困るんじゃないか?」と言った、**組合員の不安や職場の実態に基づいた声が集まる。**そうした声を基に、労働組合と会社で団体交渉が行わ



れ、徐々に会社の提案の真意を明らかにしていく。団体交渉の結果、労使の不明点や対立点を解消するために、変更後の**労働条件について運用などの詳細を決めて、双方が納得(≠「妥結」)**として、**初めて変更後の労働条件が適用される**のだ。これで誰もが安心して働くことができるのである。

一方、労働組合がない場合は、会社から説明を受けた労働条件を**過半数代表者が受け入れる**だけ。結集、議論できる労働組合と異なり、重要な変更を受け入れる責任の重さは想像に難くないだろう。最悪の場合、**変更後の労働条件の運用次第では労働者が不利益を被ることだってある**のだ。

『今は満足だから、労働組合に入らない』では、あなた自身も会社も守れない。もしもの時に本音で語れる場所にいないからこそ、あなたや多くの働く仲間を守り、ひいては会社の発展に繋がるのだ。

会社と言い合うことはダメじゃない。その時に備えて労働組合(それも全ての仲間のために、職場実態に応じて会社と向き合える労働組合)に加入することが重要なのである。

もしもの時に本音で語り合い、支え合い、
会社を良くしていく…それが労働組合の役割だ